

# 推薦の言葉

昨今、心エコー法に関する書物はおびただしく出版されている。特に循環器関連の学会における心エコー本の展示は和書、洋書ともかなりのスペースを占めている。心エコー法の基礎から臨床まで詳説した大著、エコー法の基礎または疾患診断のいずれかに重点をおいたもの、また検査法と診断の要点のみを簡潔にまとめたもの等々である。今から心エコーを手掛けようとする初心者なら、既刊本のあまりの多さにどれを選ぶか迷うに違いない。そのような状況のなかで、あえて本書を刊行したということは、本書が他より優れているか、または心エコー本として読みやすく、かつわかりやすいというような特色があるはずである。

通読してみると本書は心エコー法についてわかりやすく書かれていること、かつエコー図記録法や、診断に至る過程を理解しやすく解説していることなど、心エコー法について臨床の現場で知りたいことをほぼ網羅した優れた本である。

本書はpart ~ までの4編からなり、基礎編、実践編1、2、応用編で構成されている。基礎編は初心者が知っておくべき心エコー法の最小限の知識、その表示法と心臓の解剖学的位置関係などの要点が述べられている。次の実践編1は本書のなかで最も重点がおかれている印象があり、解説内容が実に懇切丁寧に理解しやすく書かれ、時間がなければここから読みはじめても十分に心エコー法のあらましが理解できよう。実にわかりやすく解説している。基礎編と実践編1の一部は重複しているが、理解し記憶するためにはそれもまたよいかと思う。実践編1を理解したうえで、実践編2、応用編へと進めば心エコー法による日常の心臓診療の8割方は征服できるといってもいいであろう。くり返すがそれだけに実践編1は心エコー法入門に欠くことのできない理解すべき最小限の知識を簡潔明快に述べている。鮮明なエコー図の記録法、種々な心疾患診断に適したエコー図の記録法、心臓の形態および機能の評価法など理解しやすく解説している。実践編2と応用編は患者の自覚症状や理学的所見から、診断へ到達するためのエコー図記録法と考える進め方をわかりやすく解説している。

本書は初心者向け心エコー法入門書として最適であるが、ある程度心エコー法熟達者でも実践編2や応用編は心エコー法再認識という点でおおいに役立つはずである。

著者らは臨床心エコー法の第一人者、故町井潔先生の薫陶を受けており、エコー法基礎の重要性の他、特に臨床に直結する心エコー法という臨床重点主義を徹底的に叩き込まれた弟子たちである。超音波法の専門的基礎を知りたい人にとっては物足りないかもしれないが、心エコー法を縦横に駆使し、臨床的に心臓の機能や形態、血流状況を知って診断や機能評価に役立てるには、本書ほど基礎から臨床までわかりやすく解説した心エコー法入門書はあまりない。ぜひ本書を心疾患の診断や機能評価に役立ててほしい。

最後に、著者の一人の“心エコー法検査前に必ず心音の聴取を”という言葉は、エコー図のみに頼りがちな循環器科医に対する重い言葉であることも銘記すべきだ。

2008年4月

日本超音波医学会功労会員  
元東邦大学医学部教授  
平井寛則